

街道を歩く

中山道：馬籠宿・美濃 16 宿(30 里 21 町余)

1馬籠宿—落合宿	10伏見宿西—今渡—太田宿
2落合宿—中津川宿	11太田宿—坂祝(勝山)
3中津川宿—坂本	12坂祝—鵜沼宿
4坂本西—大井宿	13鵜沼宿西—新加納
5大井宿西—横根—深萱	14新加納西—加納宿
6深萱—大瀬宿—八瀬沢	15加納宿西—河渡宿
7八瀬沢—細久手宿—平岩	16河渡宿西—美濃寺宿—呂久
8平岩—津橋—御嵩(井尻)	17呂久西—赤坂宿—青墓
9御嵩宿—伏見宿	18青墓—垂井宿—野上
	19野上—関ヶ原宿—今須宿

慶長 5 年(1600)”関ヶ原”合戦において勝利し天下を掌握した徳川家康がまず着手したのは道路の整備であった。翌年の慶長 6 年(1601)東海道の宿駅伝馬制を導入し、五十三次の宿を設け公文書の通送、人馬の通行を開始した。

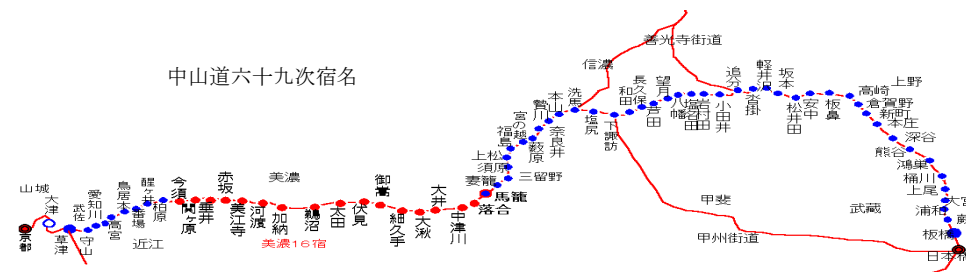
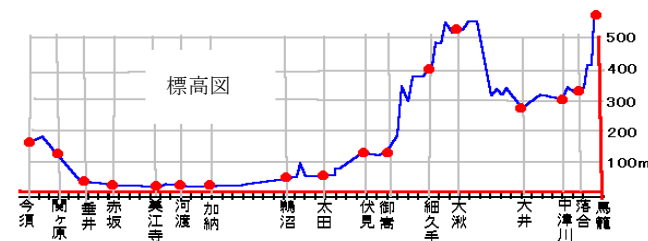
翌年慶長 7 年に中山道を、引き続き奥州道中、甲州道中、日光道中整備し幕府の直轄道とした。万治 2 年(1659)には大目付高木伊勢守守久を初めての道中奉行に任命し五街道を管理させた。

中山道は初めから江戸末期の道筋でなく下諏訪宿を出て、今の岡谷市の東堀から南下、三沢から小野峠を越えて三州街道の小野に出て、さらに牛首峠を越え木曽路の入口桜沢の北に出る道筋であった。この道は当時勘定奉行であった大久保石見守長安が木曽の森林、伊那の米輸送の近道として開拓したものだが、長安が慶長 18 年(1613)に亡くなり、死後に生前の不正が発覚、遺子 7 人切腹させられた。その罪によりこの道は廃止され、新たに下諏訪から塩尻、洗馬、本山宿経由の道ができた。

美濃においては長安は中世以降のルートであった御嵩—日吉—釜戸を日吉の丘陵ルートに変更し十三峠の改修にかかり、大瀬宿開設(1604)、続いて細久手宿開設(1610)した。

中山道は東海道のバイパス的な役割を持ち江戸と京を結ぶ幹線の役割を担っていた。東海道はしばしば川留めに合う大井川、浜名湖の渡し、熱田・桑名の”7 里の渡し”などの難所が多かったが、それに比べると中山道は木曽谷のように険しいところがあるものの四季折々の景色も楽しめ多くの旅人にも利用されていた。特に女性の道中に利用される事が多かったので姫街道とも呼ばれた。幕末の皇女和宮降嫁の道中は良く知られている。

この中山道は幕府が初めから開拓したものでなく、律令制下の行政区画である五畿七道の内の東山道が基になっている。東山道は近江、美濃、飛騨、信濃、武蔵、下野、上野、陸奥の八か国(後に出羽が入り、陸奥は外れる)地域を示していた。これら地域と都を結ぶ道が整備、駅馬、伝馬制が設けられ、伝路の名称も東山道と呼ばれるようになった。以後律令制度の疲弊(摂関政治へ)とともに駅馬、伝馬制度は軽視されたが、その後鎌倉幕府や、戦国大名達により駅制、宿駅が設けられてきたので中山道への基盤はあった。



加納宿、 広重

参考

- ・講座テキスト
- ・定本 中山道美濃 16 宿 郷土出版
- ・中山道・美濃 16 宿 太田三郎著 大衆書房
- ・今昔中山道案内 今井金吾 日本交通公社
- ・中山道歴史散歩 斎藤利夫 友峰書店新社

H11/10—H13/3
あきやま ゆたか
平成 13 年 3 月